



# PipeLine

特集

分科会

「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」



## No.44 Contents

特集／分科会 「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」	P1~4
教養のページ 医療現場と方言のはなし —社会に役立つ方言研究をめざして—	P5~6
FD部会報告 楽勝科目を勧める先輩に 私は今のままで就職できますか?…と聞いてみよう!	P7~8
Information 共通教育実施機構からのお知らせ	P9

# 「キャリア形成支援科目分科会」紹介

キャリア形成支援科目分科会長

鈴木 啓之



はじめに

キャリア形成支援科目分科会は、次の3つの仕事に携わっています。①教職科目および学芸員資格に関する科目と、長期インターンシップ(CBI科目)やその他のキャリア支援のための科目との2系統の科目の開講、②それらの授業に関するFD活動(授業改善のための活動で、今年度は授業参観を実施)、③年度毎の結果に関する自己点検評価、です。

## キャリア形成支援科目の概略

高知大学のキャリア形成支援科目は、上記のように2つの系統で成り立っています。わかりにくいところもありますので、その内容について多少説明しておく必要があるかと思います。

教職科目の内、共通教育科目には、「教職に関する科目」(教員として備えておくべき職能的知識に関する科目)の多くが置かれています(教科指導法、教育実習等を除く)。教員免許の取得を目指す場合、この「教職に関する科目」と「教科に関する科目」の2種類の科目の学習を行う必要がありますが、その内の前者を高知大学では共通教育科目に配置しています。また、学芸員資格に関する科目についても、全学的実施を求められる科目について共通教育に位置づけています。教職科目と学芸員資格に関する科目は、職業資格に関する科目としてキャリア形成支援科目に位置づけられています。

長期インターンシップ(CBI科目)と「その他のキャリア形成支援科目」は、資格教育とは別に、職業人としての能力形成等を意識して設けられている授業です。CBI授業は、6ヶ月を標準とする長期インターンシップについて、事前指導、事後指導を含めて開設されている科目群です。その他のキャリア形成支援科目は、自己分析やいわゆる「社会人基礎力」の形成に資する科目等を配置しています。

これら2系統は、いずれも、特に「卒業後」を意識して学んで頂くという意味で、キャリア形成支援科目に位置づけているわけです。

## 教職科目について学生諸君に留意して欲しいこと

学校教員の現場には、今、多くのストレスがかかっており、希望が叶って教職に就いたはずの若者が、そのストレスに耐えきれずに離職に追い込まれたりする例が多いことは、聞いている人も多いでしょう。この背景は様々ですが、それらを全体として評価した上で、文部科学省は、教員志望の学生諸君に本気で教員という職業に向き合って学習するよう求めてきています。その代表的な現れが「履修カルテ」です。これは、教職に関連する全ての科目について、何を獲得したか、何が課題として残ったかなどを記録し、毎年度アドバイザー教員が点検を行うために作成するものです。そこに質の高い記述をできるように、一つ一つの科目の学習をおろそかにせず行って欲しいと思います。



イメージ

## キャリア形成支援科目分科会の課題

上で「その他のキャリア形成支援科目」として紹介した科目には、「キャリアパス演習」、「進路決定支援演習」、「チームワークを考える」などが含まれています。キャリア形成支援科目の高知大学での位置づけは、大学での学びと職業をつないで考えるための授業を提供するというポジションだと考えていますが、資格教育以外の部分では、そのほんの一部分を提供しているという形です。キャリア形成支援は、共通教育だけですべてを賄うべきだとは考えていませんが、大学での学びと職業観や人生観をつないで考えるような科目は、共通教育でも専門教育でも今後増やしていくべきだと思っています。しかし、分科会としてここ数年は、この科目群の充実や見直し等を行っていません。自己点検評価やFDの活動は、これまでの所、既存の科目群を前提としたものになっています。今後は、全学的な教育改革に合わせて、この科目群全体の充実を考えることが課題だろうと考えています。



◆ 特集 分科会「キャリア形成支援科目」「スポーツ・健康」

# 「スポーツ・健康分科会」紹介

スポーツ・健康分科会長

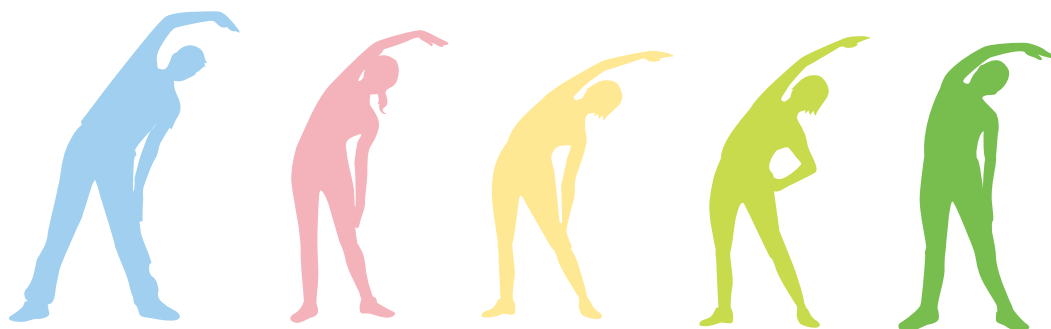
本間 聖康

「スポーツ・健康分科会」では、朝倉、物部地区での、スポーツ実技とスポーツ科学講義のカリキュラムを計画しています。学校体育での保健・体育という科目からすると、体育分野にあたります。保健分野にあたるものは、「生命・医療分科会」が担当し、「健康」の授業などがあります。

医学部では、旧高知大学と旧高知医科大学が統合した経緯もあり、医学部としてのスポーツ実技とスポーツ科学講義のカリキュラムも計画されています。

スポーツ実技では、硬式テニス、エアロビクス、ディスクゲーム、ゴルフ、卓球、バドミントン、バレーボール、フィットネス、ボウリング、一から学べる筋力トレーニング、剣道、バスケットボール、ジョギング入門、スキー・スノーボードの種目が開講されています。スポーツは、心身の健康に好ましい効果が期待できますが、スポーツ実技が必修から選択制になり、また30時間で1単位であることから、選択制になってから以降、30時間で2単位を取得できるスポーツ科学講義を受講する学生が増加したように思われます。

スポーツ・健康分科会としては、スポーツ科学実技受講希望者の受け入れ人数を考慮して、複数の種目を開講していますが、集団種目にもかかわらず、少人数での種目が生じています。原因は色々考えられそうで





す。高校までに経験した実技は受講しようと思わない。選択したいが、スポーツ実技の時間帯に、専攻専門の授業が組み込まれ選択できない。30時間で1単位は効率が悪い。友達を誘ったが、だめだったなど。

スポーツ・健康分科会としても、改善策を検討しています。集団種目にもかかわらず、少人数での種目が生じているのには、現行ではKULASで申請した結果に従って希望者を決めており、種目間の人数調整ができていないことも影響していると考えられます。一度、スポーツ実技受講希望者を集めて、人数調整するのが良いのではないかと考えています。また、受講種目についても、開講時間帯を変更したり、個々の教員の専門性を生かした新しい種目を開講したりして、学生の受講増加を試みています。

スポーツ科学講義では、スポーツ科学講義A、B、C、Dが開講されています。それぞれ担当教員が異なり、担当教員の専門性(例えば、心理学、運動学、方法論、社会学、経営学、ほか)を生かした授業が開講されています。シラバスをみて、興味のある講義を選択してはどうでしょうか。スポーツに関わる意外な価値や現状、興味ある知識を得られることでしょう。

個々の大学生は、心身の健康にとって、身体活動の必要性・重要性を、少なからず認識しているのではないのでしょうか。スポーツ活動をするにあたっては、時間、空間(場所)、仲間の3条件が必要とされますが、大学の授業では、この3条件が用意されています。この3条件を授業外に求めようとすると、費用面を含め負担があると思います。

興味もてない。一人での参加は気が重い。などと思っているあなた。そう思っても、そこに参加するまでです。いざ参加するときっと楽しく感じられることでしょう。新たな種目を経験すること、技能レベルの異なる人と活動すること、初めての人や他学部の人と一緒に活動すること、仲間として一緒に活動することで得られるものは大きいですよ。食わず嫌いをせず、スポーツ実技にチャレンジしてみてもいいですか。



# 医療現場と方言のはなし

－社会に役立つ方言研究をめざして－

教育学部 岩城 裕之

**方** 言を調べるためにフィールドに出る。その時、話者の緊張をほどこき、関係を作るために世間話をするのだが、よく出てくる話題に、医者に方言が通じなかったという話がある。

**例** えば、広島。「先生、歯がはしるんじゃが」「どこまで走るんですか？」という笑い話。津軽では、「そこへ腹ばいになりなさい」と言うつもりで若い医師が方言を使ったら、「そこさ、くたばりへ」（本当は「のだばり へ」というべきでした・・・）。患者は、医者に「くたばれ」と言われたと言ってショックを受けた、など。

**今** 、若い医療者と高齢の患者の間でこのような例が起きている。もちろん、医師や看護師は優秀で、方言が理解できなかったから患者が命を落としたということはない。ただ、地域医療に本気で取り組もうとすると、相手の方言を理解することが重要になってくる。

**世** の中には高齢化である。一方で、若い世代の共通語化も進んだ。その結果、伝統的な方言をあまり知らない若い世代が、超高齢者の言葉を理解しなくてはならないという難しさが生じた。例えば人生50年の時代であれば、二十歳の医療従事者は30年前のことばの理解で良かったものが、人生90年生きようになれば、60年前の方言を知っていないといけない、ということである。

**こ** のような医療現場での方言の問題を研究し始めたのが今から9年前のことだった。日常の診療場面を対象にしているうちはゆっくりと進められた研究だったが、東日本大震災が起きたことでスピード感が求められる研究に変化した。東日本大震災では、被災地が東北方言を話す地域だったこともあり、方言理解は難しかったようだ。それも震災直後でなく、1ヶ月ほどたってからの方が深刻であった。地震直後は非常時でことばの問題は顕在化しにくかった。しかし時間がたつと、話を聞いてほしいという患者、ぱっと見ただけでは異常がわかりにくい患者など、ことばに頼る場面が増えていった。被災地でのインタビューからは、各地からの医療支援スタッフ、ボランティアなどが、東北方言が理解しにくかったという例が数多く集まった。医師の中には個人的にメモをつくったり（〇〇方言という形で）、地元の人に通訳に入ってもらったり、それもかなわなければ「自分はきちんと話を聞けた自信がない」という残念さを持っていたり。

「先生、歯がはしるんじゃが」  
「そこさ、くたばりへ」

東北方言の特徴  
オノマトペ(擬態語)の豊かさ

**東** 北方言の特徴の一つにオノマトペ(擬態語)の豊かさがある。みなさんはどれくらい理解できるだろうか？

ざらざら(する) → ぞくぞく悪寒がする(宮城、岩手)

たくたく → 足に力が入らず、ふるえる。がくがくする。(岩手)

はかはか(する) → 動悸が激しい様子(宮城、岩手)

**今**、我々の研究チームでは、東日本大震災をきっかけに、広い地域から支援を受けなければならない大規模災害を想定し、医療現場で重要になるとされる語彙群を抽出、全国版で方言の手引きを作成している。今年度中にひとまず完成させる予定だが、南海トラフ地震が想定される高知県は、特に細かいケアが必要になるのではないかと考えている。四万十と高知市では方言に違いがあるが、これを「高知県方言」としてひとくくりにするのは難しい。市町村単位で作りたいところである。そして、できれば、地域住民を巻き込んで、自主防災組織で方言の手引きを準備するということをねらっている。

**方**言研究が社会の何の役に立つの？ということがよく言われてきた。しかし、この話のように、別の業界で役に立つこともある。これまでの方言研究者の研究の蓄積データが、加工の仕方次第では役立つ資料となるのだ。この世界を開いたのは、フィールドでの何気ない会話であった。フィールド(現場)は、テーマの宝庫である。いざ、フィールドへ。

土佐弁

幡多弁

# 楽勝科目を勧める先輩に 「私は今のままで就職できますか？」 ・・・と聞いてみよう!

共通教育実施機構 FD 部会長  
立川 明



イメージ

## ふりかえりが成長を促進する

最近学校教育の現場から社会人の研修まで、いろいろなところでふりかえりが重要であると言われています。教育の成果は、受講生の行動変容にみられるとするならば、授業が学生にとって良い授業かどうかを判断するのに受講生の満足度で測ったのではまったく無意味であることは言うまでもありません。楽勝科目には受講生の満足度を高める要素が満載です。授業に出ている単位が取れる＝ハードルが低く、遊びに割ける時間が増える。期末にレポートを出せばよい＝試験でなければ一夜漬けの勉強すら必要ない。授業期間中何もなくても単位が出る＝学ぶものも無く、成長も見込めないが、そもそもそんなことを期待していない。こんな事を続けていたら就職活動が始まった時、泣かないですむのでしょうか？ いやいや専門科目は頑張るし・・・と思っているあなた！ 実際の統計では大学生の多くは週平均、授業時間外の学習時間が5時間以下という結果です。これで頑張っていると言える？ ふりかえりをするにも何も中身のあることはやっていないのでは、ふりかえりできないですね。ふりかえりをするために中身のあることをしましょう。

中身があれば部活でもボランティアでもインターンシップでもかまいません。アルバイトだけは条件付きです。もしあなたが起業家のように考え、起業家のように働けるのであればアルバイトでもOKです。逆に言えば何も考えず、ただ同じことを繰り返している部活には意味がありません。ふりかえりのため、中身のある活動を1～2年生の内に始めましょう。



る部活には意味がありません。ふりかえりのため、中身のある活動を1～2年生の内に始めましょう。

## ふりかえりは反省ではありません

よく、反省して落ちこんでそのままという人がいますが、まったく無意味です。必要なのはポジティブなアクションプランです。もちろん、大失敗したときはしっかり反省してどっぴり落ちこむことも必要ですが、すぐにポジティブなアクションプラン作りに取り組みましょう。アクションプランですから、ポジティブであることが重要です。「〇〇しない!」はだめです。「〇〇する!」というプランにしましょう。



ふりかえる内容はうまく行かなかったことに限りません、反省では無いのですから。日常私たちは、問題が起こらなかったときやうまく行ったときはスルーしがちです。今日はなぜ失敗しなかったか、あるいはなぜうまく行ったか、分析することは有意義です。うまく行った理由を知り、それを習慣づけることも重要です。ふりかえりでは、うまく行ったときこそしっかりその原因を突き止めるようにしましょう。

## ふりかえりノートを作ろう

今日一日をふりかえり、今日うまく行ったこと、失敗したことをふりかえり、ノートに記録しましょう。「なぜ？」・・・理由を考えて書くことが重要です。特に失敗したときはポジティブなアクションプランを書きましょう。これはふりかえりのためのノートです。日記ではありません。したがって、何が起こったかはふりかえりのための必要最小限にしましょう。

ついでに、ポジティブ心理学のワークを入れても良いでしょう。今日一日をふりかえって感謝することを5つ書きます。それぞれ短い文章で、誰に（または何に、どんなことに）どんな理由で感謝するか書きます。その時の気持ち、情景、音や臭いなども思い出しながら、リアルにその場にいるように感じながら書きましょう。このワークをする人はしない人より心も身体も健やかでいられるそうです。

## 就活で困らない中身のある学生生活を送ろう

ふりかえりをするためには、中身のある活動が必要です。課外活動でもただ漠然と同じメニューをこなしている部活ではあまりふりかえることは無いでしょう。ふりかえれないからこそ、漠然とした部活になるのかも知れません。ただ、偶然この大学に集まった人と、偶然出会い、偶然入った部活にこの重要な「ふりかえり」という活動をおまかせするわけにはいきません。高知大学に入学した皆さんには、正課の授業で成長を保証したいものです。にもかかわらず、皆さんが楽勝かどうかだけを基準に履修科目を選ぶのであれば、もはや学びや成長は保証できません。是非、ふりかえりの機会が多い授業かどうかを履修の目安にさせていただきたいです。例えば、小テストが頻繁にある、グループ活動や学外活動が多く、ふりかえりの機会が設けられているとか、PBL（課題またはプロジェクト基盤型授業）であるとか。是非先輩に聞くならやりがいがある授業はどれか、聞いてみて下さい。授業のおかげで成長できたと思うのは、どの授業か聞いてみて下さい。これに答えられない人の言うことには、耳をかさない方が良いでしょう。

参考：「絶対に達成する技術」、永谷研一、中経出版





# パイプラインについて

今年度、共通教育の広報部会長になりました教育学部の野角孝一です。高知大学に来て4年目になりますが、まさか自分が部会長になるとは全然思いませんでした！

現在の共通教育広報誌「パイプライン」はご覧のようにweb上で見ることができますが、着任した当時は印刷されたものでした。そのため今や「パイプライン」は見ようと思えば誰でも簡単に見ることができます。しかしその反面、魅力的な記事でなければすぐに飽きられてしまいます。私も学生の時に共通教育のような授業に出ましたが、専門ではない分野の勉強はとても新鮮でした。「パイプライン」を通して、シラバスでは伝えられない授業の魅力を少しでもお伝えできればと思っています。

様々な方々の助けを得ながら少しでもより良い広報誌にしていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



「優しい音」野角孝一

## 編集後記

今号のパイプラインは2つの分科会の特集である。将来、そして日常生活に直結する分野である両分科会の科目について、担当の先生方によりわかりやすく解説していただいた。日本においては、大学が大きく変わろうとしている。本学、そして共通教育も、変化を見極めつつ、充実した教育内容を提供していこうと、努力している。今号でその一端を示すことができれば幸いである。(T)

高知大学共通教育広報誌 [パイプライン] **PipeLine** No.44

発行 / 高知大学共通教育実施機構会議  
編集 / 共通教育実施機構会議広報部会  
〒780-8520 高知市曙町2丁目5-1  
☎088-844-8168 (学務課共通教育係)

発行日 / 2015年1月  
制作 / 南西村謄写堂

広報・記事についてのご意見をお待ちしています。  
Mail : [gm06@kochi-u.ac.jp](mailto:gm06@kochi-u.ac.jp)